

(1) 飛行機上より見たる第一、第二、第三地區全景(横濱市土木局工營所菊地技師撮影)

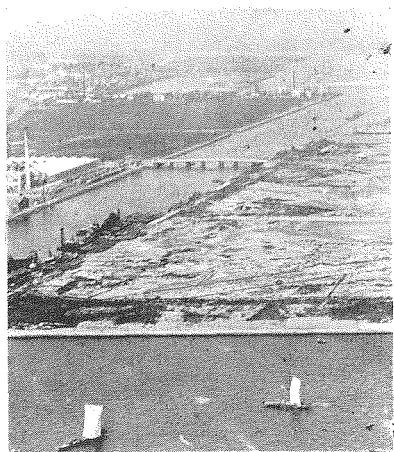
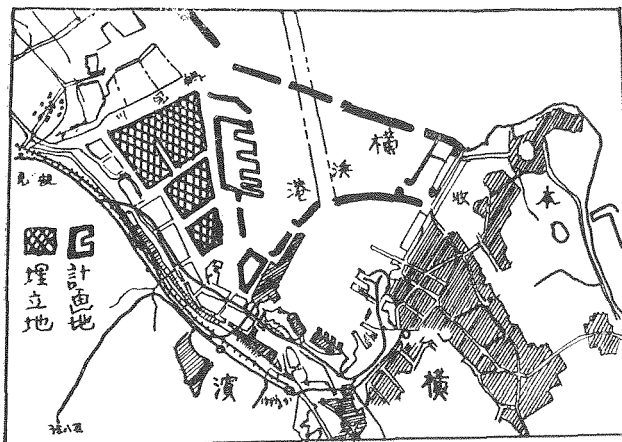
横濱市營臨港工業地の埋立に就て

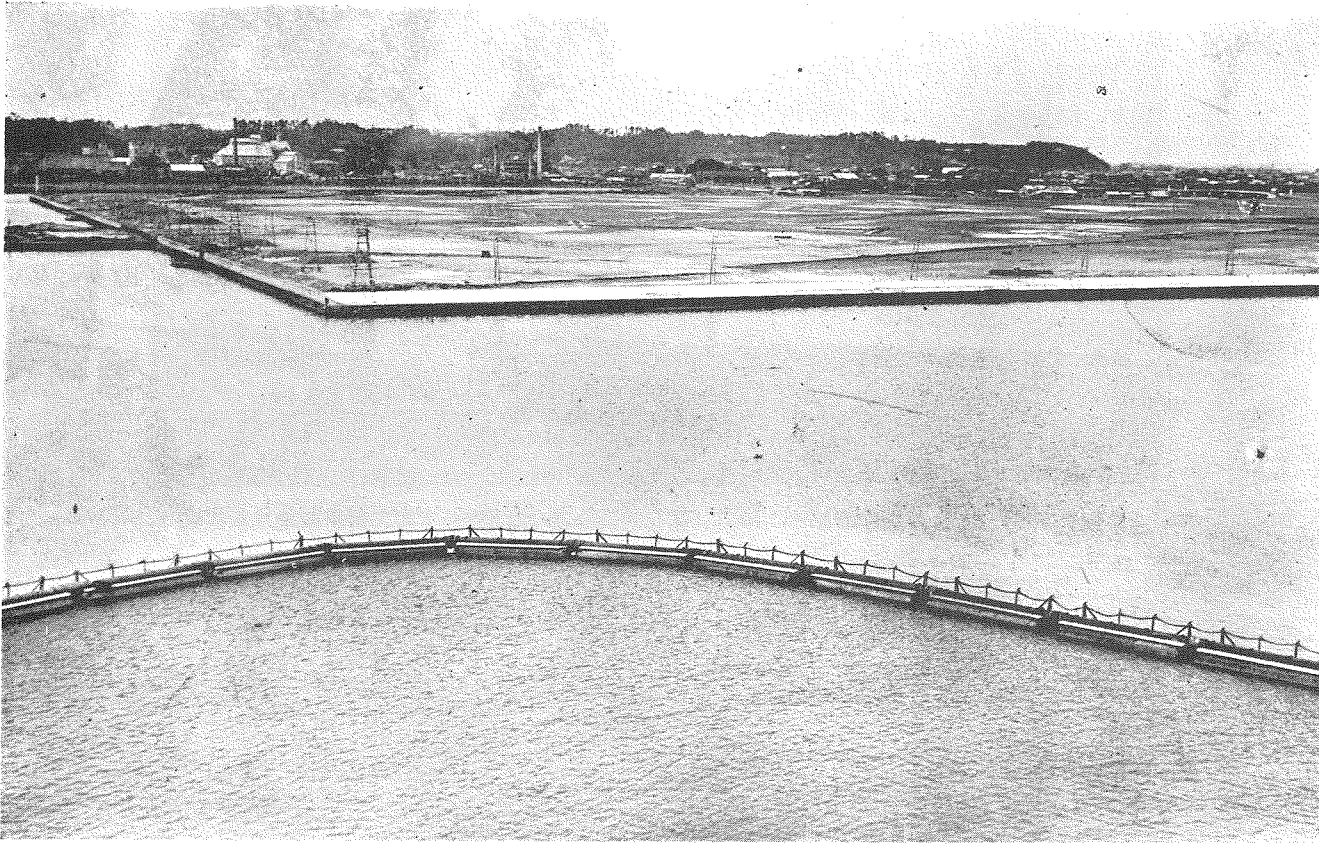
横濱市土木局長 大 岡 大 三

横濱市は港灣によつて成立する都市であるから、港灣の消長は直接に本市の盛衰を支配すること深甚である。然るに本港に於ける従來の貿易を見ると、内外物資を伸繼するにとどまり、港灣の經濟的根據を構成すべき工業の發達には何等見るべきものがなかつた。

茲に於て、市長貴族院議員有吉忠一氏は、港灣政策上の根本策として、本邦第一の消費地を控へ、水陸連絡の利便に富みたるを利用して、海面を埋め立て、價格低廉なる土地を提供して大いに工業の發展を招致し、以て本市に全國屈指の臨港工業地を造成すると云ふ

臨港工業埋立地附近平面圖 (2) 埋立地の一部(菊地技師撮影)



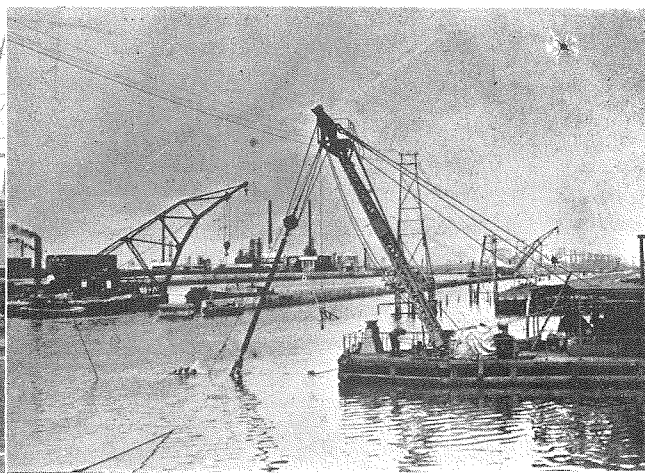
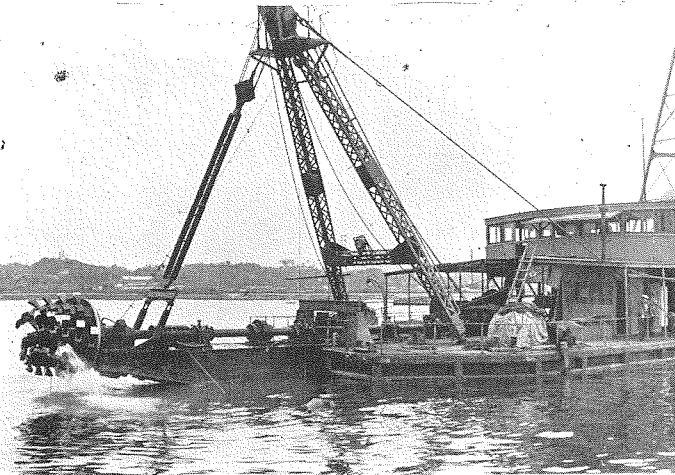


(3) 第三地區埋立工事實況

其 一

(4) 埋立用電動ポンプ船の土丹岩掘整作業

(5) 同 上

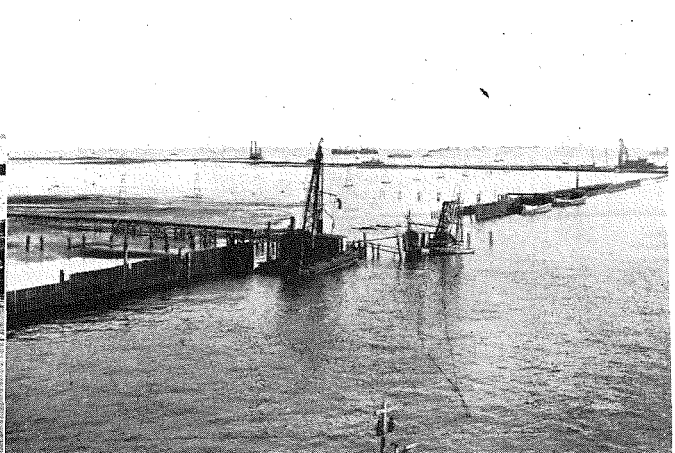
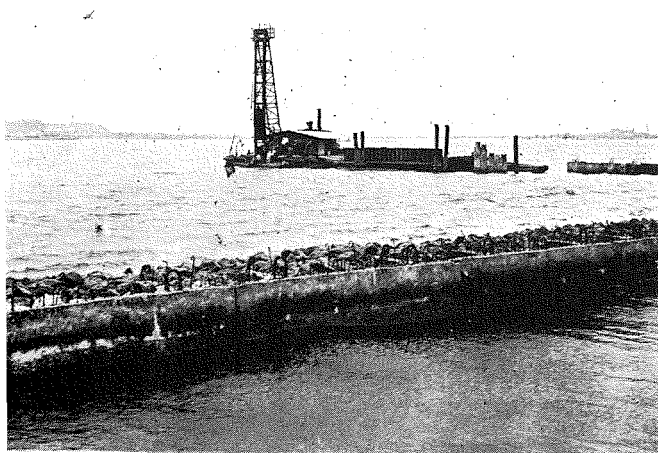


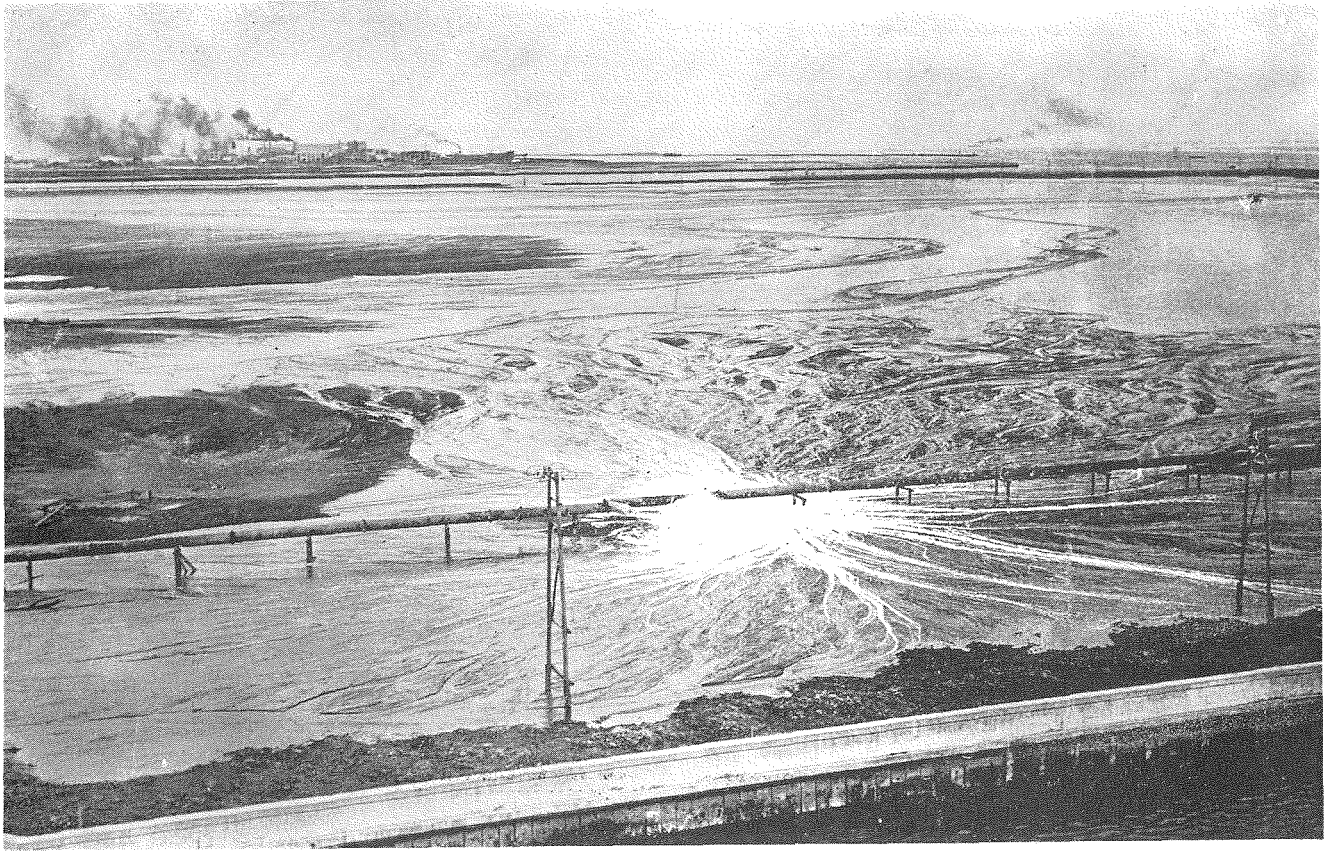


其 二

(6) 護岸シートパイル 建込實況

(7) シートパイル建込と埋立の同時作業

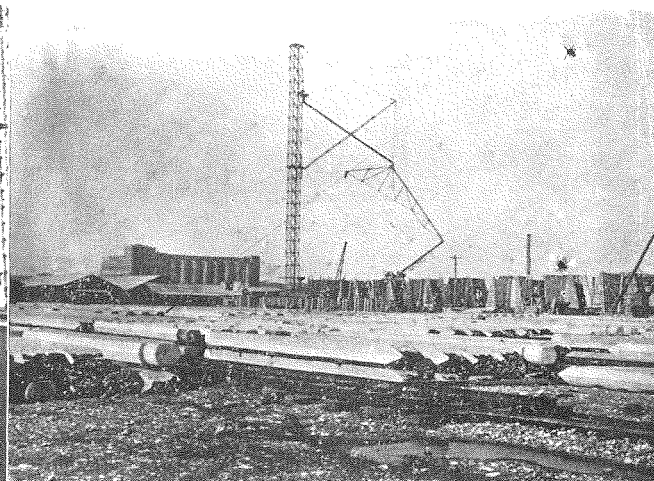
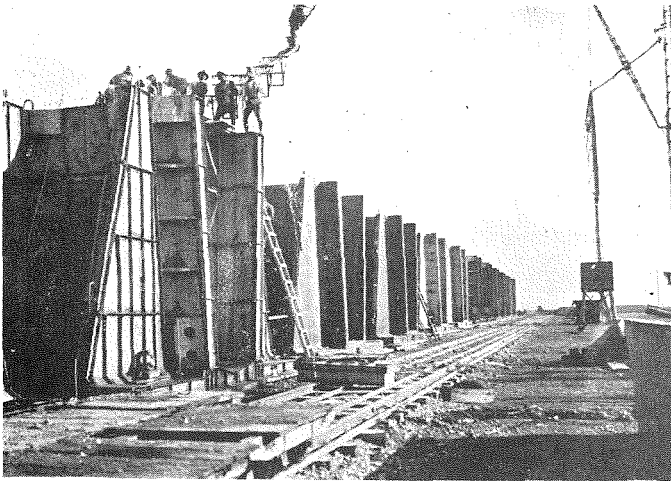


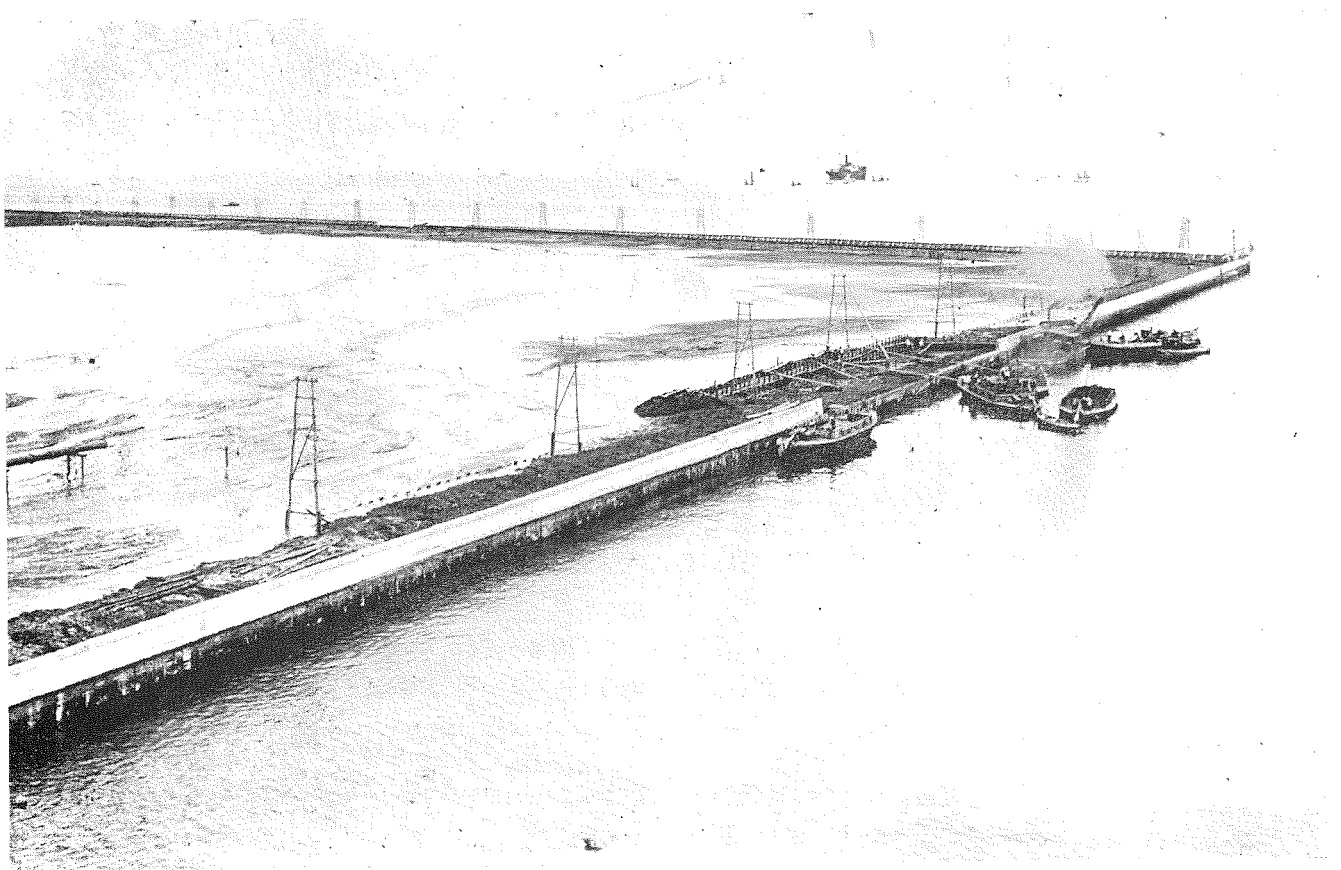


其 三

(8) 護岸用扶壁體製作業

(9) 同上混凝土パイル製作實況

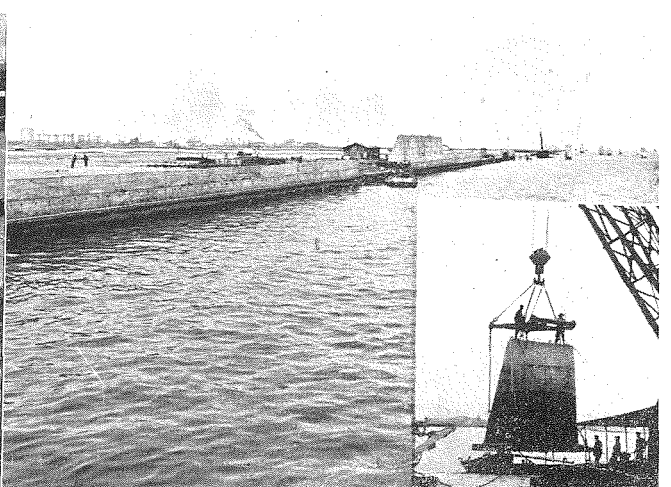
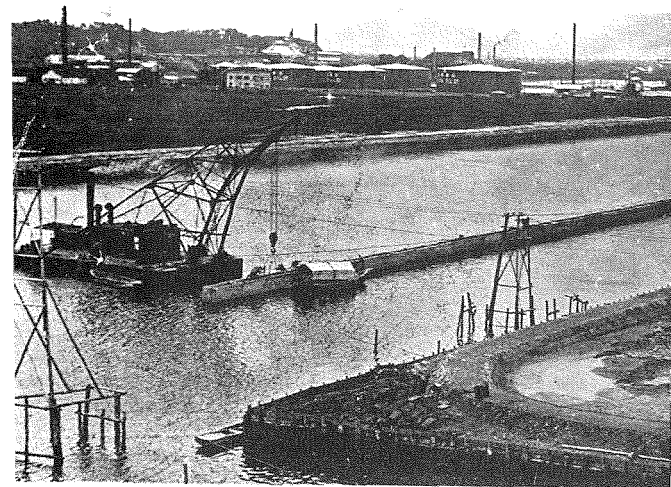


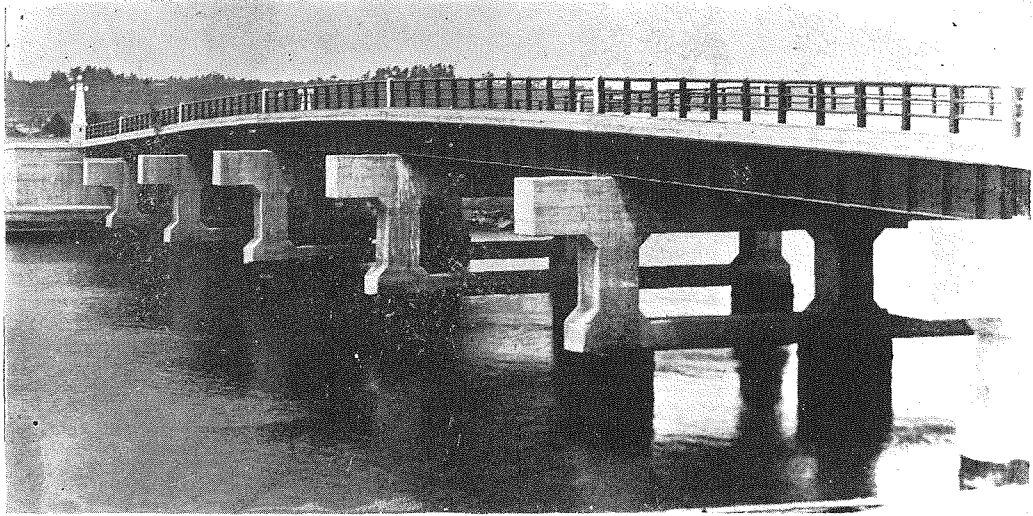


其 四

(10) 護岸用混凝土方塊据付作業

(11) 護岸扶壁體の据付作業





(12) 埋立地後方連絡の大黒橋

結論のもとに、港灣部長原靜雄氏がその計畫を樹て、こゝに總工費 14,800,000 餘圓を投じ、七ヶ年繼續事業として、港内の公有水面 617,000 餘坪の埋立免許を受け、昭和二年一月にその工を起し目下盛んに工事を進めてゐる。

埋立地は之を第一、第二、第三の三地域に區劃し、各地區は海又は運河に圍まれる。第一地區は既に完成して、之と京濱國道の連絡道路も完成し、第三地區の北部も完成、之と京濱國道との連絡道路も近く完了の見込である。その他の地區も半ば進工してゐるので、昭和九年三月までには全部竣功する豫定である。

計畫の要項

本工事計畫の概要を摘記すれば、次の通りである

1. 面積 第一地區(平面圖中下方)は 113,939坪、第二地區(平面圖中央)は 133,419坪、第三地區(平面圖中上方)は 369,794坪である。

2. 鐵道引込線 鐵道省鶴見大操車場から複線で第三地區に導き、同地區に本工業地帯に出入する貨物列車を編成、或は配車すべき操車場を設け、更にこれから各地區へ達せしむる外、海岸貨物線の守屋町から第一地區へ

引つ込み之と連絡せしめる。

3. 道路 幹線は幅員15間とし、各地區を縦貫するもの一線、各地區と京濱國道とを連絡するもの三線を設ける外、幅員6間乃至10間の道路を各地區へ配置し、8間以上のものには歩車道の區別を設け、各道路の先端は何れも海、又は運河に達せしめる。

4. 周圍の水渠 舢舨留豫定箇所を除いて他は干潮面以下32尺で、優に 10,000噸級汽船を繫留して接岸荷役を可能ならしめた。

5. 運河 各地區間は幅員50間乃至 100間水深測望平均干潮面以下9尺乃至30尺で、10,000噸級汽船の航行又は繫留が自由である。

6. 護岸 護岸は工場敷地護岸として適當な工法に依り、鐵筋混凝土扶壁體又は鐵矢板で施行した。

7. 基礎地盤 本埋立地は殆んど全部土丹岩又は堅質砂層で、工場敷地としては最適のものである。 以上